

共通取組 重点取組		平成27年度		
		具体的取組	自己評価結果	総括
1	確かな 学力	○ユニバーサル化した授業スタイルをもとに授業実践を行います。 ○共同授業研や教科会等を核に児童生徒の学習に関する情報共有に努め、学力向上に反映させます。	○全国や横浜市学力・学習状況調査の結果をもとに成果と課題を分析し、教科会を中心に学力向上について取り組みました。その結果、概ねどの教科においても学年が上がるにつれて市調査での正答率が向上しました。 ○小中一貫校の特性を活かし、授業のユニバーサルデザイン化を推進しました。その結果、児童生徒が見通しをもって授業参加できるようになりました。	A
2	豊かな 心	○異年齢の児童生徒との交流、職場体験、ボランティア体験等の機会を活用し、相手を思いやる心の育成を推進します。 ○児童生徒の自己有用感を高めるため、前年度に引き続き行事や授業での実践を進めます。	○心の育成を図る根本には自己有用感の育成が不可欠であるとの認識から、行事や学習等に関して自己有用感をどのように育成するか実践しました。その結果、自分が他人の役に立っていると感じている児童生徒が増えています。 ○小学生の部活動への参加により中学校生活への見通しをもって、進学に関する小学生の不安感が和らいでいます。 ○職場体験、ボランティア体験等により、児童生徒の地域や社会貢献への意識を高めました。また対人関係調整能力が着実に定着しています。	B
3	健やかな 体	○体育活動や部活動の活性化を進めます。部活動については6年生からの活動に向けて取り組みます。 ○生涯スポーツの視点から、授業等では可能な限り多くの種目を体験させます。	○体育活動や部活動の活性化を図り、体力向上に取り組みむとともに、保健学習等を通じて生活習慣改善を意識させました。 ○小学生の部活動参加によって、運動部への参加児童の体力が着実に向上しました。 ○体育の授業では多くの種目を体験し、自己の特性の把握とスポーツに取り組み楽しさを実感させました。	A
4	教育課程 ・ 学習指導	○文部科学省に教育課程特例校として指定された事実をもとに、9年間を見通した柔軟な教育課程編成や、新たな学習指導法の開発等を行います。 ○共同授業研への職員の参加体制を工夫し、小、中それぞれの強みを生かした学習指導のあり方について研究を進めます。	○小中が一体となり9年間を見通した教育課程の展開に取り組みました。 ○小、中の教員が乗り入れ授業を行い、専門性等を生かした授業実践に努めました。 ○学習スタンダードに加え、指導スタンダードの策定に取り組みました。 ○月例の小中教科会開催に加え、必要に応じて担当者会を開き、9年間の効果的な授業展開を確認し、また実践しました。	B
5	児童生徒 指導	○児童生徒指導部会のみならず小中の部活動顧問会などの機会をとらえ、児童生徒情報の交流に努めます。 ○収集、集約した情報を生かすため、児童生徒指導の一層の充実を図れる体制作りを推進します。 ○9年間の個々の児童生徒の情報蓄積を行い、それを活用します。	○児童生徒指導部会を主軸におきながら、日常的な職員交流の機会を活用し、児童生徒等に関する情報収集、集約に努め、それをもとに迅速な取組を意識し実践しました。その結果、全体として健やかな子供の育成が実現できました。 ○小、中の全教職員が部活動の顧問として活動したことから、顧問間で児童生徒の情報交流が活発になされるようになりました。	B
6	地域連携	○地域は学校にとって極めて重要なパートナーであるとの意識をもち、協働する機会を増やせるよう働きかけを行います。 ○現在の良好な関係性を維持し、また発展できるよう連携の強化を図ります。 ○地域人材の活用が本校の教育には欠くことができないことから、人材発掘等に努めます。	○従前以上に地域や保護者等と連携に努めました。その結果、学校諸行事には前年度以上の参加者を得ることができました。 ○連合自治会に援助いただき、グローバル人材の育成をめざし、8月には10名の生徒をベトナム、カンボジア研修旅行に派遣できました。 ○連合自治会等から部活動等に要する器具等の購入資金を援助していただくなど、物心両面にわたり支援を得ることができました。	A
	人材育成 組織運営	○引き続き小中企画会等の場を活用し、教育課題への改善を図るための議論を行い職員の意識向上をめざします。 ○共同授業研が人材育成の重要な機会であることを意識し、テーマの設定等を工夫し、一層充実した研修が実践できるよう取り組みます。 ○場合によっては、昨年度と同様に外部からも講師を招き研修の充実をめざします。 ○これまで小、中学校の校務分掌には少しづつの相違があり、そのことで取り組みの遅滞を引き起こすことがあったため、分掌の見直しと整理、新設を進め、より円滑な実践を行えるようにします。	○小中企画会等の場を活用し、教育課題への改善を図るための議論を繰り返しました。この機会を経て職員のモチベーションが高まり、また、学校経営への参画意識が強まりました。 ○共同授業研の開催を通じて、教科や学級指導等について学び合うことができました。 ○小中一貫教育の充実をめざした今年度も外部からの視察者が多く、説明や対応にあたった教職員にとって大きな刺激となりました。 ○義務教育学校への移行に関する準備活動を通じて、教職員の意識が一層高まりました。 ○学校内での研修等とともに、教育公務員として責任ある行動を示す意識化が進みました。	B
	小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	本校は小中一貫校		
	学校 関係者 評価結果	○小中一貫校としての取組が児童生徒にどのような変化をもたらすのかを示してほしい。 ○保護者アンケートから、多くの人に評価されている項目がある。これについては継続してほしい。 ○部活動顧問には大きな負担をかけている。可能なところから改善してほしい。		
	評価結果に 対する 学校の 見解	○小中一貫教育によって劇的に変化するところは少なく、継続することで徐々に成果があらわれるものとする。主観に加え客観データをもとに確認していきたい。 ○部活動においても地域人材の活用を積極的に取り入れ、顧問教諭の負担軽減をめざしたい。 ○引き続き、霧が丘ブランドの確立に向け保護者、地域等から意見収集に努める。		
	学校経営 中期目標 達成状況	○小中一貫教育に関する職員の意識が高まり、児童生徒の健やかな成長をもたらす本校独自の取組がなされた。 ○学校運営協議会から、より魅力的な学校づくりに向けて「霧が丘ブランド」に関する具体的な提案をいただいた。		